

平成 27 年度 学校 評価 実施 報告 書

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>単位制システムを活用した特色ある教育活動を通し、多様な生徒のニーズに応える教育課程の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多岐にわたる選択科目を自らの興味に応じて選択する力を養う。</li> <li>3年間で80単位以上を履修・修得できるよう推進し、そのための相談体制を充実させる。</li> <li>高大連携、技能審査、就業体験活動、ボランティア活動等の学校外の学修を推進する。</li> <li>特別授業や外部との連携により、多様な学習機会を提供し、さらに進んで学ぶ力を養わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談体制を充実させ、履修指導が充分に行われたか。</li> <li>選択科目の内容を充実させ、多くの生徒が80単位以上履修・修得することができたか。</li> <li>学校外の学修の推進を行えたか。</li> <li>外部との連携による学習機会を提供できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程説明会や面談週間において、担任を中心に保護者を含めた面談や個別相談を行い、履修ガイドブック等も活用してきめ細かな履修指導を行った。学習コーナーの環境を整えたことにより相談体制がより充実した。</li> <li>現3年次生で80単位以上履修・修得の見込みのある生徒数が89人であるのに対し、現2年次生は来年度末までに80単位以上を履修・修得する予定の生徒数は187人となった。これは十分な指導が行き届いた結果だと考える。</li> <li>学校外の学修については技能審査のみならず就業体験活動やボランティア活動で単位を修得する者もいた。</li> <li>外部との連携による多様な学習機会についてはインフォメーションボード等を利用して情報を提供し推進を図ったが、全体としてあまり大きな変化は感じられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な選択科目の履修を推進するため、魅力ある選択科目の紹介に努め、継続的に履修指導にあたる。また、進路選択の可能性を広げ、進路実現を図るための履修指導も継続して行う。</li> <li>今後も80単位以上の履修・修得を本校生としての標準（清流スタンダード・仮称）としていけるように指導を継続していく。生徒の可能性を最大限引き出し、いけるよう充実した指導を模索していく。</li> <li>高大連携等の学校外の学修を推進するために年次、グループ間で連絡を取りながら職員間の理解を深め、生徒への情報提供をより積極的に行っていく。</li> <li>生徒の学習ニーズと提供していく情報内容が乖離している状況が考えられ、内容の精査をしていく必要がある。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路実現に向けて、選択科目を増やしてほしい。</li> <li>学習コーナーは充実している。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な選択科目が用意され、生徒一人ひとりに合わせた充実した学習が実現できているが、生徒による授業評価等を分析し、授業の見直しを行うことで、さらに充実度が増す。</li> <li>的確な履修指導の成果として、修得単位の増加につながっている。</li> <li>外部連携や学校外での単位修得についても生徒の履修しやすさや興味関心に応じた開拓など、より一層の増加を期待する。</li> <li>単位制普通科高校としての特色が出ており、選択科目が多いので、目標を持った生徒には良い環境ができていますが、目標の定まっていない生徒にも興味を引くような科目の検討も必要である。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な選択科目の履修を推進するとともに、確かな学力を身につけさせるために丁寧な履修指導に努めた。</li> <li>今後も履修・修得の総単位数の増加を推進し生徒にとって興味や関心のある科目設定を検討するとともに、進路実現につながるような科目設定に努めたい。</li> <li>学校外活動での単位修得について、生徒への周知の徹底を図るとともに、学修のできる教育施設等の拡充を図った。</li> <li>生徒による授業評価を精査し、授業力向上の一助となるように図った。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部との連携による授業は教育効果も高いのでさらに推進する。</li> </ul>
<p>生徒の個性を尊重しきめ細かな生徒支援を行うとともに、明るく充実した学校づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別学習指導や面接などを通じ、生徒の良い面をすすんで見つけ尊重する姿勢を全職員が持ち、課題の早期発見、解決をめざす。</li> <li>ケース会議等、組織的な支援体制を一層進め、外部との連携も念頭に置いた教育相談体制を充実させる。</li> <li>あいさつ運動を推進し気持ちの良い学校づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の課題の早期発見・対応のサポートができたか。</li> <li>遅刻指導を効果的に実施し、年間の遅刻指導件数を30件以内とすることができたか。</li> <li>ケース会議等、組織的な支援体制を一層進められたか。</li> <li>互いに高めあう居心地の良い学校づくりに努めたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラーとの連携が円滑に行われ、情報は担任をはじめ職員全体に周知することができている。その結果、生徒個々へ必要な支援を効果的に行うことができた。</li> <li>居心地の良い環境を作り出すことで、校内では多くの生徒が爽やかな日常を過ごせている。</li> <li>遅刻指導が定着し、目標より大幅に数を減らすことができた。</li> <li>毎週水曜日に生徒会役員が中心となり「あいさつ運動」を定着させ行うことができた。小中との三校交流で休業明けに行われる「ふれあいあいさつ運動」へも積極的に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講師についても教科主任を通し確実に情報の共有ができるよう連絡を密にする。</li> <li>引き続きサポート体制を強化し教員間の連絡を密にする。</li> <li>遅刻指導について、今後も更に数が減るよう指導を継続していく。</li> <li>また服装等の指導についても継続して徹底していく。</li> <li>日常的に元気の良いあいさつが飛び交うような雰囲気作りに努め、委員会・部活動の生徒も巻き込んで「あいさつ運動」の拡大を計画する。</li> <li>「あいさつ運動」は定着しつつあり、今後は地域への波及効果も視野に入れていく。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>清掃が行き届いており清潔感のある環境が良い。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身に真剣に向き合うことが求められる一方で、居心地の良い温かみのある学校であることが、生徒に認識されてきている。あいさつ運動やきめ細かい指導が、このような認識に繋がっている。さらには、生徒が学校に誇りを感じる事が大切である。</li> <li>開校以来、挨拶を中心に明るい学校という伝統が定着しつつあると感じる。</li> <li>遅刻者の大幅減となったことは評価できる。登校時に限らず、授業や集会等にも5分前行動を身につけておくことは、社会人となった時にはとても重要なことである。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつ運動」を通し、日常的に明るく元気な挨拶が交わされている。本校の校風の一つとなってきており、校内が爽やかな雰囲気づくりができた。</li> <li>日ごろから、担任を中心に遅刻指導をおこない、必要があれば生活支援グループが協力し、遅刻指導に努めたことにより、遅刻者数の減少ができた。</li> <li>教育相談コーディネータやスクールカウンセラーを中心にケース会議を開催し、個々の生徒へきめ細やかな支援ができた。また、必要に応じ外部機関とも連携した。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要としている生徒に対して積極的に外部機関と連携を進めていく。</li> </ul>

<p>生徒一人ひとりが主体的に参加する授業づくりを行い、自ら学ぶ力を育成しより高い学力を定着させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書を核にした読書活動を学校司書と協力して一層の推進を図る。</li> <li>校内において、アクティブラーニングの考え方をさらに浸透させ、生徒の主体的・能動的な学習を推進、充実させる。</li> <li>授業力向上のため、外部機関との連携も視野に入れ、研究授業、公開授業を組織的に進め、成果を検証する。</li> <li>家庭学習を定着させ、空き時間や放課後における「独習」の応援体制を作る。ST(清流タイム)を有効に活用し、生徒の個別課題の解消および個々の学力の伸長を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の読書活動を充分推進できたか。</li> <li>アクティブラーニングの考え方が校内に浸透し、生徒の主体的・能動的な学習を推進、充実させることができたか。</li> <li>組織的な授業力向上に努め、その成果を検証しまとめられたか。</li> <li>教師自らが意欲を持って、生徒の学習指導に取り組めたか。</li> <li>生徒の「独習」の応援体制を整えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の読書活動はほぼ定着してきた。ほぼ全ての生徒が熱心に取り組んでおり、心を落ち着けて一日の学習をスタートさせることが出来るようになっている。</li> <li>図書館の利用については、生徒や職員の意向を十分考慮して本の収集を行い、独習に対応できる魅力的な本や進学対応の本を揃えられる状況はできた。</li> <li>三校交流事業の一環として、小学生・中学生に図書室を開放し、好評を得ている。</li> <li>県の「県立高校教育力向上推進事業」の取組も3年目となり、これまで以上に授業力向上を図るため、組織的に取組を進めた。アクティブラーニング型授業における態度目標や振り返り活動が生徒たちに浸透し、主体的かつ発展的な学びがこれまで以上に見られるようになった。</li> <li>5月に第1回アクティブラーニング研修会を全職員で実施、昨年度の個々人の取り組みについて、情報を共有し、課題について協議した。6月にはアクティブラーニングをテーマに、互いに授業を見学しあう取り組みを行った。11月には公開授業を5教科で行った。7月と3月には、生徒を対象にアンケートを行った。その結果、主体性や協調性、コミュニケーション能力について高まったという結果が出た。</li> <li>生徒の基礎学力の向上、受験に向けた学力向上を図るため、夏季休業期間を通して夏季講習や補習を充実させた。</li> <li>家庭学習を定着させるよう各教科で取り組んだ。あき時間の自習環境や「独習」の応援体制について生徒への情報提供を増やすなど工夫をした。生徒のST(清流タイム)の活用実績は統計は取っていないが年々上がっていると思われる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の遅刻者が年々減ってきており、朝の読書活動は生徒と学校全体に良い影響を与えていると思われる。今後は読書活動による生徒自身の振り返りなどを充実させていきたい。</li> <li>引き続き生徒・教員の要望を考慮しながら、図書館の蔵書を充実させる。</li> <li>小中学生が気兼ねなく図書室へ来校できるような配慮について検討・実践していく。</li> <li>引き続き、アクティブラーニングの考え方を取り入れた授業改善を、個人の取組から教科として組織的な取組となるように進める。同一科目担当者が単元の授業の組み立てについて協議し、指導計画を立てて実践することで組織的な授業改善を図る。</li> <li>夏季講習に関しては開講時期や実施科目、学習内容等について様々な課題はあると思うが、現状では多くの教員が意欲を持って学習指導に取り組んでいた。更に開講科目を増やせるかどうかが課題である。</li> <li>宿題や課題を与えて提出させるだけではなく、生徒が自ら考えて学び、自身のために学習に取り組んでいけるような学習目標を授けていくことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(保護者)</li> <li>アクティブラーニングが注目されており、今後も積極的に取り組んで欲しい。</li> <li>(学校評議員)</li> <li>アクティブラーニングが根付いてきて、積極的に学ぼうとする生徒たちも増えていけると感じられるが、なかなか積極的に取り組めない生徒も出来るだけ巻き込んでいける工夫をして、生徒全体が楽しく学習に取り組めると良い。また、失敗を恥ずかしい事と思わない環境があると良い。</li> <li>生徒が受け身ではなく、自ら考え学んでいく授業づくりは、学習そのものの楽しさをどう伝えるかにかかっている。アクティブラーニングもその手法の一つであるが、アクティブラーニングのための授業であってはならない。授業外の学習も含め、生徒がどう主体的に取り組むかを様々な試みから実践してもらいたい。朝の読書活動や独習の応援体制などもその一環として評価できる。</li> <li>アクティブラーニングに対する生徒アンケートでは、協調性・コミュニケーション・考える力が向上したとの回答が多かった。今後は、課題発見力・課題解決力・論理的思考力についての向上を実感させることが求められている。アンケートでは4点尺度での回答データが得られているので、推測統計を使った分析も可能である。</li> <li>生徒による授業評価を有効に活用することにより、教師も緊張感を持ち、様々な取組の改善につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校評価)</li> <li>朝の読書活動は定着しており、生徒の言語活動の向上に役立っている。</li> <li>県の「県立高校教育力向上推進事業」の指定が3年目となり、組織的な授業力向上に取り組んだ結果、授業改善の状況が生徒による授業評価にも顕著に表れてきた。</li> <li>図書館の利用については、生徒の活用状況を検討し生徒の必要としている本を揃えることができた。</li> <li>(改善方策等)</li> <li>生徒の学力向上のために、家庭学習を中心として「独習」をさらに推進する。</li> <li>生徒の基礎学力向上の向上、受験に向けた学力向上を図るため、ST(清流タイム)の有効活用と夏季休業期間の講習の推進のために、部活動との調整が必要である。</li> <li>次年度以降、アクティブラーニングを学校の特色として継続し授業改善を推進する。生徒アンケート等で明らかになったアクティブラーニング型授業の課題解決に向けてさらに研究を続けていく。</li> </ul>
<p>計画的なキャリア教育を推進し、社会に出てから必要とされる生活実践力の育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育実践プログラムに基づきキャリア教育を実践するとともに、課題発見力・課題解決力を育成する。また、シチズンシップ教育を計画的に位置づけ充実させる。</li> <li>社会とのつながりを持つようにインターンシップ体験を全生徒に広く伝え、拡大する。</li> <li>高い部活動の入部率を維持し、より活発な部活動を推進するとともに、生徒会行事の計画・運営に、生徒が主体的に取り組めるよう体制を一層強化する。</li> <li>「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかわる力」を育てることにより自己肯定感をさまざまな授業を通して高め、社会の一員としての自覚を持たせる。</li> <li>外部との連携によるキャリア教育を促進させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題発見力、課題解決力を養うことができたか。</li> <li>インターンシップ体験を促進できたか。</li> <li>生徒が主体的に活動できるよう、リーダーの育成など、体制づくりができたか。</li> <li>さまざまな場面で、生徒の自己肯定感を高め、自他をともに大切にすることを「いのちの授業」の実践が行われたか。</li> <li>キャリア教育の促進が図られたか。</li> <li>部活動の入部率を80%以上で維持できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育実践プログラムに基づきキャリア教育を計画的に実施しているが、基本的な考え方は、校内でのあらゆる教育活動がキャリア教育になっているということである。特に日頃のアクティブラーニング型授業による学習活動は、キャリア育成において大きな効果が出るものと考えている。</li> <li>1年次実施のキャリア支援ツールでは、分析結果や講演会等をもとに、生徒に自らの在り方生き方について振り返り、今後の過ごし方について考える機会を与え、卒業までの36箇月間の流れの中で継続指導している。</li> <li>インターンシップ体験生徒は昨年度、本年度共に22名であった。インターンシップ体験がその場限りのものにならないよう、目的意識をしっかりと持たせる事前指導を行った。また、生徒の実施記録、事業所からの評価票をもとに振り返りを行い、充実したプログラムとなるよう努めた。</li> <li>5月時点での部活動の入部率は86.7%で、高い加入率を維持できている。また、部活動の運営が社会生活での実践力の向上につながるよう、仲間との協働、協力、切磋琢磨を経験し、様々な力の育成につながるよう、各顧問が熱心に指導を続けることが昨年に引き続きできている。</li> <li>いのちの授業に関して、「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかわる力」の育成を念頭に各教科とも意欲的に実施した。</li> <li>7月に、2年次生を対象に司法参加教育を横浜地検の方を招き、模擬裁判などを取り入れて実施した。10月には、1年次生を対象に講師を招き、消費者教育を行った。</li> <li>行事を担っている委員会役員の継続性(3年間同じ委員会に所属する)がほぼ確立され、Festa清流、スポーツ大会は生徒主体で行える体制ができてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブラーニングによる日頃の教科学習活動が、大学入試よりもむしろ社会に出てから役立つことを、今後も生徒にしっかり認識させていきたい。</li> <li>キャリア支援ツールをもとに、総合的な学習の時間を活用し、各教科での学習と連動させながらキャリア教育を促進し、将来の自分自身の在り方生き方について考えさせていく。</li> <li>今年度のシチズンシップ教育の内容を分析し、課題を整理するとともに、参政権が高校生に付与されることを踏まえて、来年度行う政治参加教育について、内容を検討する。</li> <li>夏季休業が終わった段階で部員の入れ替わりがあるので、生徒会支援Gが中心となり年次団と協力し、退部した生徒・未加入の生徒に加入推進の働きかけを行い、将来的には90%以上の加入率を目指す。</li> <li>自己肯定感の高まりは、たとえば、アクティブラーニング型授業における学び合いを通して、いっそうの効果が期待できるので、今後も継続して見ていきたい。</li> <li>役員の3年間継続性を全ての委員会で確立させ、向上心を持ち、計画的な委員会運営が生徒主体で実施されるような流れを作っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(保護者)</li> <li>部活動を通して友好的人間関係を高められていると思う。</li> <li>(学校評議員)</li> <li>大学受験だけを目標にするのではなく、その先の社会人としてどのように生きていくかという目標を持てるような取組や、社会の様々な人達に目を向けられるユニバーサルな考えを持てる機会があると良い。</li> <li>今後の10年、20年で、現在ある仕事のいくつかは世の中から消滅する。キャリア教育においては、職業を取り巻く環境が大きく変化することを、学校の教育や外部との連携のなかで実感させる必要がある。そのうえで、自己変革力や変化対応力を身につけることが必要である。</li> <li>部活動の加入率が高く維持できていることは、高校生活の活性化に役立ち、学校の個性化にもつながっている。</li> <li>社会と接点を持ち、自らが社会の一員であることを自覚できるようなシチズンシップ教育の充実を期待する。</li> <li>アクティブラーニングの授業評価は参考になる。アンケート結果を分析し課題を克服してほしい。</li> <li>経済産業省の「社会人基礎力」、経団連の「求める人材像」はアンケートのコミュニケーション力、チームワーク、自ら考える力などと一致する。生徒が自覚するアクティブラーニングの目指すところが、社会が求めていることであることをしっかりと伝え、目的をもって取り組むと良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(学校評価)</li> <li>キャリア教育実践プログラムに基づきキャリア教育の実践とともに、課題発見力、課題解決力を育成することができた。特にキャリア支援ツールが効果的であった。また、学校全体で取り組んでいるアクティブラーニングを取り入れた授業は、生徒の課題発見力、コミュニケーション能力などの汎用的能力の伸長に大いに効果的だったと考えている。</li> <li>各教科において、授業を通し「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかわる力」を育むことに努めることができた。</li> <li>生徒へインターンシップの情報を提供し、多数の生徒が参加することができ、キャリア教育の促進が図られた。</li> <li>(改善方策等)</li> <li>シチズンシップ教育では、特に政治参加教育に向けて内容を精査し生徒への指導に努める。</li> <li>部活動の入部加入率の現状維持を図る。</li> <li>事故防止に関しては、意識の向上だけでなく、正しい計画と十分な点検のための時間が必要である。今後はスケジュールについても再考し、さらに事故防止に努める。</li> </ul>

<p>地域及び学校間の連携事業や奉仕活動、保護者との協働を通し、開かれた学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の計画的実施と地域連携の一層の推進を図る。また、生徒によるボランティア活動の充実を図る。</li> <li>・PTA活動への会員の参加を促し、さらに活性化を図る。</li> <li>・学校行事への保護者の参加を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の充実を図ったか。(新たな連携事業を1件以上実施したか。)</li> <li>・PTA活動の充実を図ったか。</li> <li>・保護者が学校行事に参加し、学校の状況を充分に伝えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動については、旧モーガン邸の保全活動・土嚢作り・地域清掃を3本柱にした計画をたて、10月実施に向けて準備を整えている。</li> <li>・新たな地域貢献活動として「藤沢宿場まつり」に生徒会役員生徒が参加した。今後も連携を続ける予定である。</li> <li>・地域のイベントへ生徒会役員・ボランティア部・委員が積極的に参加し、高い評価を得ている。</li> <li>・定例の年1回のPTA総会を開催し、各案の承認を得た。(5月)</li> <li>・毎月第2木曜日の午後定例のPTA実行委員会を開催した。</li> <li>・陸上競技大会(5月)へ観覧案内を配付し、保護者の多くの来場をいただいた。</li> <li>・各PTA委員の保護者の協力のもと、文化祭にPTA企画として出店し、多くの人々が来られた。</li> <li>・大学見学バスツアー(6月)、リボンレイ講習会(6月)、花壇の手入れ(毎月1回)、広報誌の発行などの各PTA活動をおこなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動の3本柱は定着したので、地域清掃の内容を再検討し、地域に根付くような貢献活動を実施できるようにする。</li> <li>・学校のホームページを活用してPTAの活動状況を保護者に広く伝えることを検討する。</li> <li>・学校行事等の案内について文書の配付と共にホームページや「まちcomi」メールを積極的に活用する。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの保護者が学校のホームページを閲覧しており、まちcomiメールの配信も多く行われているので地域の方々も含めて良い環境にある。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に開かれた高校として近隣でも認識されている。藤沢市やNPO法人のイベントにも積極的に関わっているため、藤沢清流高校の名前は多くに市民に認知されている。</li> <li>・地域との連携活動は一過性ではなく持続して行うことが大切なので、継続して行うような伝統を築くと良い。</li> <li>・地域貢献活動などを通じて、開かれた学校との印象を近隣住民は有している。本校の特徴あるアクティブラーニング講座を市民対象に実施しても良いのではないか。</li> <li>・藤沢清流高校は地域との連携や奉仕活動に力を注いでおり大変良い。現在の3本柱に加えて介護・養護・外国人市民など、支援の必要としている人々への関与に取り組むことも良い。</li> <li>・三校交流は興味深い試みで、今後、それぞれの学校から課題を持ち寄った実証的な研究や、学校の枠にとられない相互の継続的な課題解決の取組などの可能性がある。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域貢献活動については、地域の様々な行事に積極的に参加し、地域の方と触れ合うことができ有意義な活動であった。</li> <li>・全生徒が三校交流にかかわり、他校種の生徒と触れ合うことで「おもいやり」「他者理解」を学ぶ良い機会となった。</li> <li>・PTA活動については、様々な企画があり参加者も多く充実した活動を行った。</li> <li>・学校行事への保護者案内を印刷物以外に「まちcomi」などを活用し周知を図ったことにより各行事への参加者が増加した。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動については、ボランティア委員会、ボランティア部を中心に活性化しているが、さらに生徒の裾野を広げるために、情報提供などの工夫を続ける。</li> </ul>
<p>情報発信の充実、不祥事防止の徹底、防災体制や防災教育の充実により、信頼される学校づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会、ホームページ等を充実させ教育活動の発信に努め、本校理解を進める。</li> <li>・教職員一人ひとりの意識が高まるよう、事故防止会議の運営を工夫する。</li> <li>・防災マニュアルをさらに実効性のあるものにし、校内の防災環境を向上させ、計画的な防災教育を実施する。</li> <li>・事務・技能職員と教職員が一体となったの施設整備などやISO14001の取組を継続実施する。また、透明で合理的な予算計画、予算執行体制を維持し、適正で円滑な会計執行を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信が適切に行えたか。</li> <li>・事故防止を一人ひとりが自分のこととして捉えられたか。</li> <li>・校内の防災環境の向上が行えたか。</li> <li>・計画的な防災教育を実施できたか。</li> <li>・複数の目によるチェック体制で、情報の共有化や施設整備などが実施できたか。</li> <li>・適正で円滑な会計執行を行えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に全公立展、第1回学校説明会、8月に部活体験デー、公私合同説明相談会を行い、中学生、その保護者に向けて、丁寧でわかりやすい説明を心掛けて行った。体育館の耐震工事のため、説明会の時期や部活動の公開等に多くの制約を受け、例年通りの実施ができなかった。そのため昨年度に比較して第1回学校説明会や部活体験デーの来校者はかなり減ってしまった。</li> <li>・各分掌グループの割り振り、原則として月に1回、事故防止会議をおこない教職員一人ひとりの意識を高めている。</li> <li>・防災マニュアルの見直しをおこない、職員に周知させた。</li> <li>・全校で地震及び大津波を想定した防災避難訓練を実施した。(9月)</li> <li>・ゴミの分別を徹底させるため、全校集会で生徒に喚起した。また、教室以外のゴミ箱の数を最小限にした。</li> <li>・合理的な予算計画のもと、適正かつ迅速な会計処理が行われている。</li> <li>・体育館が耐震改修工事のため使用できない中で、事務・教員等が協力し、極力、支障が出ないよう努めている。</li> <li>・施設、設備の定期的な安全点検を実施することにより校内の生活環境の維持を図っている。</li> <li>・環境法令を適正に遵守し、環境に配慮した行動として、節電、節水、リサイクル等に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明会等への来校者が昨年を下回っているため、そのカバーをすることが今後の課題である。オープンスクールにおいても、数回に分けて学校説明会をするなどして、説明会の方法を検討し、少しでも多くの方に、本校の特色を理解してもらえるように努める。</li> <li>・事故防止会議以外でも県からの事故防止関連の通知を全職員に配付する。また、新聞の教職員の不祥事等に関する記事にも注意をはらい、随時教職員に紹介する。</li> <li>・防災避難訓練の反省をもとにして避難経路の検討をおこなう。</li> <li>・ゴミ倉庫や粗大ごみ置き場をチェックし、分別状況を把握する。</li> <li>・私費中間監査(10月予定)の結果報告を厳粛に受け止め、より一層適正かつ迅速な会計処理を徹底させる。</li> <li>・合理的な予算計画のもと、適正かつ迅速な会計処理が行われている。</li> <li>・体育館が耐震改修工事のため使用できない中で、事務・教員等が協力し、極力、支障が出ないよう努めている。</li> <li>・施設、設備の定期的な安全点検を実施することにより校内の生活環境の維持を図っている。</li> <li>・環境法令を適正に遵守し、環境に配慮した行動として、節電、節水、リサイクル等に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・働いている保護者のために、防災について検討してもらえると保護者も安心できる。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページは、もっとも影響力のある媒体なので、こまめな更新が望ましい。また、見やすさや操作性を考慮したデザインの見直しの検討も必要である。</li> <li>・夏季休業中に職員の人権擁護研修が実施されたり、境川沿いにある学校のため、大津波の避難訓練が実施されたりと積極的に信頼される学校づくりに取り組んでいる。災害には想定外では許されない事態も起こり得るので、避難の方法についても検討する必要がある。また、避難訓練は、大清水小・中学校との連携も必要である。</li> <li>・学校案内では、単位制の教育システムの全体像がわかりやすく示されている。「まじめがかっこいい」が学校の内外に浸透し、組織文化として継続されることを期待する。</li> <li>・生徒の事件・事故の防止は基本中の基本であり、常に緊張感を持って対応する必要がある。特に、職員間のコミュニケーションが重要であり、何でも言える開かれた雰囲気づくりが必要である。</li> <li>・教職員の事件や不祥事防止のために、行動指針などの徹底が必要である。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「藤沢清流高校の散歩」を毎月発行しホームページ掲載、校外への掲示、来校者への配付などを行ったことにより、本校活動の広報を的確に行うことができた。</li> <li>・成績処理については点検を工夫し、効率よく行うことができた。</li> <li>・防災訓練については、大津波警報を想定した訓練を実施した。</li> <li>・施設設備の安全点検を実施し、事故防止に努めた。</li> </ul> <p>(改善方策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民や近隣住民への情報提供が的確に行われるように、ホームページの改良を行う。</li> <li>・事故防止に関しては、意識の向上だけでなく、正しい計画と十分な点検のための時間が必要である。今後はスケジュールについても再考し、さらに事故防止に努める。</li> </ul>